

●世界の主要拠点 (平成25年9月30日現在)



Sodick
株式会社 ソディック

〒224-8522
横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
TEL: 045-942-3111
FAX: 045-943-5835
(証券コード: 6143)

●国内

本社	横浜				
営業拠点	仙台	大宮	八王子	横浜	福井
	松本	静岡	名古屋	大阪	福岡
事業所	福井	加賀	白山	宮崎	

ホームページのご案内

<http://www.sodick.co.jp/>

株主の皆様からの声をお待ちしております。
当社では、株主の皆様からのご意見・ご質問をお受けしております。
お気軽に下記のメールアドレスまでお寄せください。

メールアドレス ir@sodick.co.jp



第38期 第2四半期

事業報告書

平成25年4月1日～平成25年9月30日

Sodick





新製品 小物精密射出成形部品の多品種化、短納期化に対応!! 射出成形機 HC03VRE

近年、スマートフォンやモバイル機器などは高機能化・小型化しているため、コネクタなどの小物精密部品の成形には高い技術が要求されます。なかでも精密インサート成形などの付加価値の高い複合成形工法が顕著に増加しています。このような成形ニーズに対応し、小型化をリードする成形機として「HC03VRE」を世界市場に投入いたしました。



ベトナム現地法人の 開所式を行いました

ベトナムは家電や自動車など幅広い製品の生産拠点となりつつあり、東南アジア地域の主要な工作機械・産業機械市場の一つとして成長が期待されています。当社グループは、ベトナムでの営業活動を強化するため現地法人 Sodick Vietnam Co., Ltd.



を設立し、2013年7月3日には開所式を行いました。これを契機に、ベトナムでの販売活動を一層強化してまいります。



EMO Hannover 2013に 出展しました

2013年9月16日から21日まで開催された、ドイツ・ハノーバー国際見本市会場にて開催された金属加工のための世界最大の国際見本市「EMO Hannover 2013」へ出展いたしました。展示会では欧州のみならず世界各国よりモノづくりに携わる方々が参加し、会場は活況を呈しました。当社は「未来を創る」をキーワードに、ユーザーの生産性向上に貢献する新技術・製品をご紹介し、活発な営業活動を展開いたしました。



未来を創る

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。現在の経済環境を見てみますと、昨年末の政権交代とその後の新政権による大胆な金融緩和政策の効果もあり、長期にわたって続いた円高が円安の流れに転じ、景況感も好転しつつあります。来年の消費税増税や、海外に目を向ければ中国経済の減速など懸念材料もありますが、今のところ経済環境は良い方向に進んでいると言えるのではないのでしょうか。

当社グループにおいても、前年の株式会社ソディックプラスチックとの合併、欧州の販売組織の再編、一昨年に洪水被害を被ったタイ第一工場の復興と第二工場の竣工など、数年にわたり取り組んできたグループ全体の再編もひと段落しました。近年の当社グループの事業は、放電加工機を中心とした工作機械事業から射出成形機を中心とした産業機械事業、さらには食品機械事業など幅広く展開しております。それに伴い、グループ内の組織も複雑化しておりますが、この度の再編により、研究・製造・販売・管理等にあらゆる面で無駄のない競争力と成長力のある「一つのソディック」として生まれ変わったと実感しております。

モノづくりの現場では絶え間なく技術革新がおこり、グローバル化も進展しております。当社グループは、常に最新の技術を応用した製品を提供し、モノづくりの現場に微力ながらも貢献してきたと自負しております。これからもお客様とともにグローバル化したモノづくりの世界を生き抜くため、ソディックグループ全体の力を発揮し、お客様に満足していただける製品を開発し、お客様の未来創りに貢献してまいります。

ソディックの経営理念である「創造」「実行」「苦勞・克服」の信念の下、社業の発展のため精励してまいります。株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長 金子 雄二

配当について

当社は大切な資本をお預かりさせていただいた株主の皆様に対し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続的な配当を実施することを基本方針としています。そこで株主の皆様に対する利益還元は、当該年度の業績や資金収支などを総合的に判断して行うこととしており、株主資本配当率(DOE) 2%以上を目標として考えております。

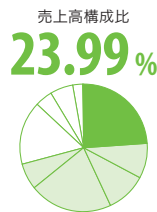
平成26年3月期の利益配分につきましては、基本方針と収益状況から判断し、第2四半期末配当を1株当たり7円といたします。なお、期末配当は1株当たり7円とし、第2四半期末配当を含め、年間配当金は1株当たり14円とする予定です。

CONTENTS	Sodick Corporate Highlights.....	1	当第2四半期(累積)の業績.....	7
	株主の皆様へ.....	2	当第2四半期(累積)連結財務諸表(要旨).....	8
	グローバルネットワークとセグメント別概況.....	3-4	株式情報/株式分布/会社概要/役員.....	9
	特集 受賞経歴からみるソディックの開発力.....	5-6	株主メモ.....	10

● セグメント別概況

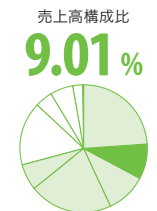
● 工作機械事業 (日本)

国内の設備投資需要は、本格的な回復には至っていないものの、政府の製造業に対する支援策の効果や景況感の改善の影響もあり、ユーザーの設備投資マインドは好転し、夏場を境に需要は増加基調に転じました。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比88百万円減(1.3%減)の64億80百万円となりました。



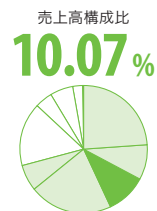
● 工作機械事業 (北・南米)

北米地区においては、自動車関連やエネルギー関連向けが好調を維持しているほか、航空機関連や医療機器向けなどの先端分野向けにも手堅い需要が見られました。当地域で上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比7億38百万円増(43.5%増)の24億34百万円となりました。



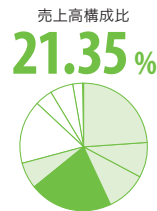
● 工作機械事業 (欧州)

欧州地域では、ロシアやトルコ、ドイツなどの地域では好調を維持しましたが、東欧圏などでは設備投資の動きが鈍く、地域によってまだら模様の需要環境となりました。また、当社グループが出展した展示会「EMO Hannover 2013」では、引き合い・商談が多数あり盛況を博しました。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比4億93百万円増(22.2%増)の27億19百万円となりました。



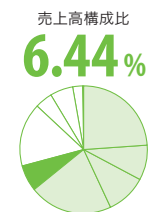
● 工作機械事業 (中華圏)

中華圏においては、設備投資需要は春節以降増加しておりますが、景気減速の影響が徐々に表れ始めており先行き不透明感が増しています。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比11億4百万円増(23.7%増)の57億68百万円となりました。



● 工作機械事業 (その他アジア)

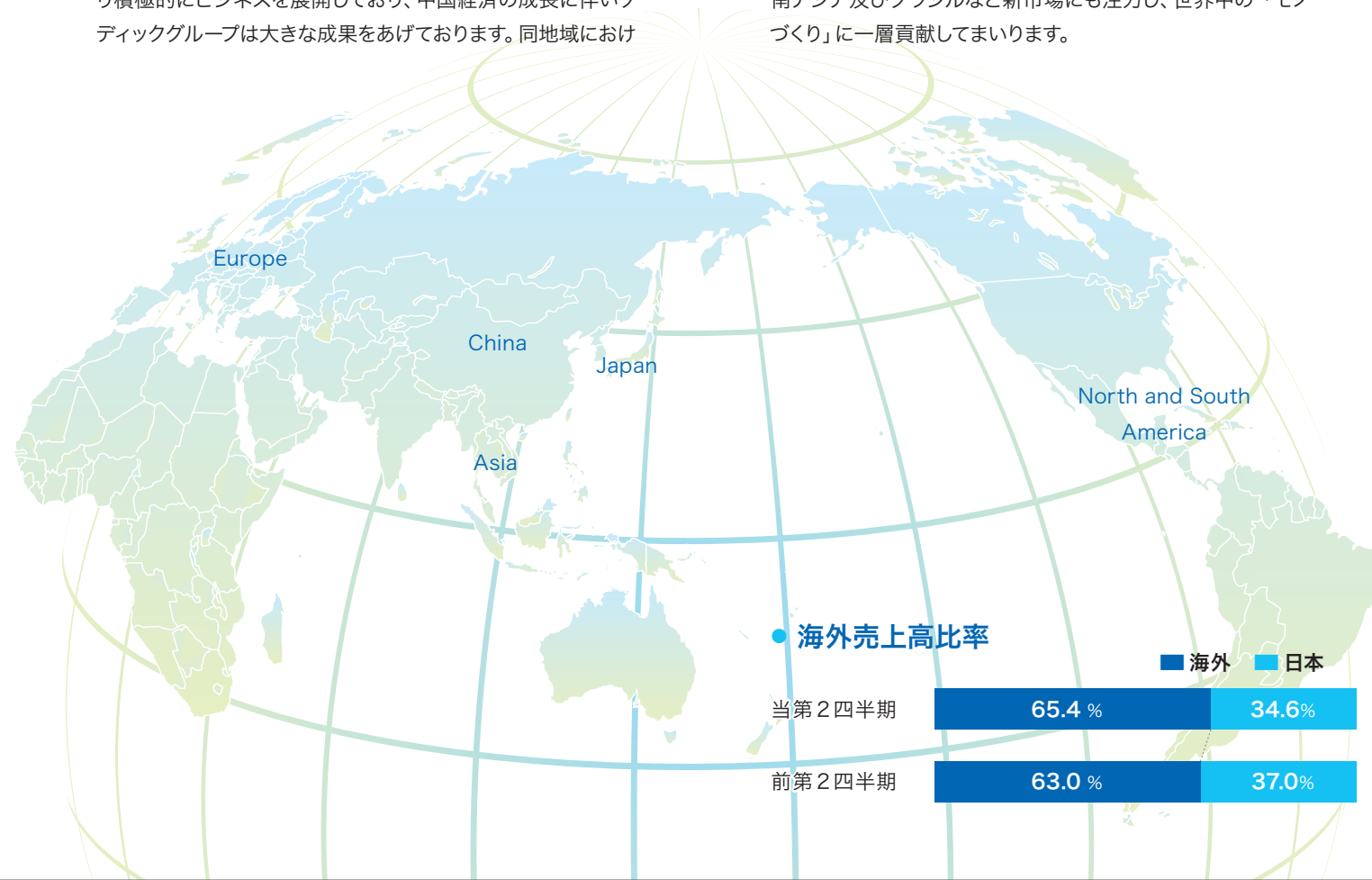
当地域の設備投資需要は、自動車・二輪車関連向けの需要が低迷したほか、前期はタイ国の洪水被害からの復興需要という一時的要因があったため、前年同四半期比で減少することとなりました。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比3億54百万円減(17.0%減)の17億39百万円となりました。



世界中のモノづくりを支える ために、 開発、生産、販売拠点のグローバル化を促進しています。

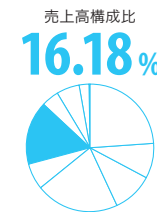
グローバル化の加速に伴い、海外売上高は拡大しています。ソディックグループは、日本や欧米などの先進工業国だけでなく、経済成長著しい新興国にも進出しています。その新興市場の代表的地域である中国では、1990年代の初頭より積極的にビジネスを展開しており、中国経済の成長に伴いソディックグループは大きな成果をあげております。同地域におけ

る販売・サービス網は、台湾を含めた中華圏に22ヶ所設置された営業・サービス拠点で構成されており、この充実したネットワークにより、お客様が安心して機械をお使いになれるきめ細やかなサービス提供が可能になっています。今後はインド、東南アジア及びブラジルなど新市場にも注力し、世界中の「モノづくり」に一層貢献してまいります。



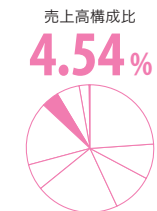
● 産業機械事業

射出成形機の設備投資需要は、アジア圏では景気減速の影響からユーザーの設備投資に対する姿勢は慎重ですが、国内ユーザーの設備投資マインドは改善傾向にあります。しかしながら、前年同四半期においては単価の高い大型案件が計上されたため、前年同四半期比では売上が大幅に減少しております。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比38億33百万円減(46.7%減)の43億71百万円となりました。



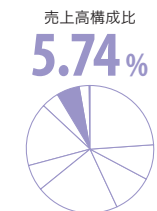
● 精密金型・精密成形事業

当事業は精密コネクタなどの精密成形品の製造を行っておりますが、主な需要先である自動車向けの精密コネクタの需要が堅調に推移いたしました。当事業の精密成形品の製造工場は宮崎県に所在しますが、火山活動が活発化している新燃岳の降灰による製品品質への影響を避けるため、宮崎県西諸県郡高原町から宮崎市田野町へ工場を移転いたしました。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比2億7百万円減(14.5%減)の12億25百万円となりました。



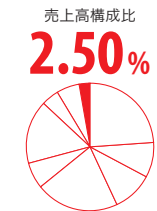
● 食品機械事業

食品機械事業は、各種製麺機、麺製造プラントなどの開発・製造を行っております。スーパーやコンビニエンスストア用製品向けの需要が好調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は前年同四半期比8億52百万円増(122.3%増)の15億49百万円となりました。



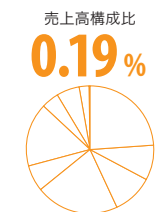
● 要素技術事業

当事業は、モータ及び制御装置の製造販売、セラミックス製品の製造販売、CAD/CAMシステムの販売、LED照明機器の製造販売から構成されております。なお、第1四半期よりLED照明の製造販売を主に行う株式会社ソディックLEDが連結の範囲に含まれたため売上が増加しております。当事業の売上高は前年同四半期比1億15百万円増(20.6%増)の6億76百万円となりました。



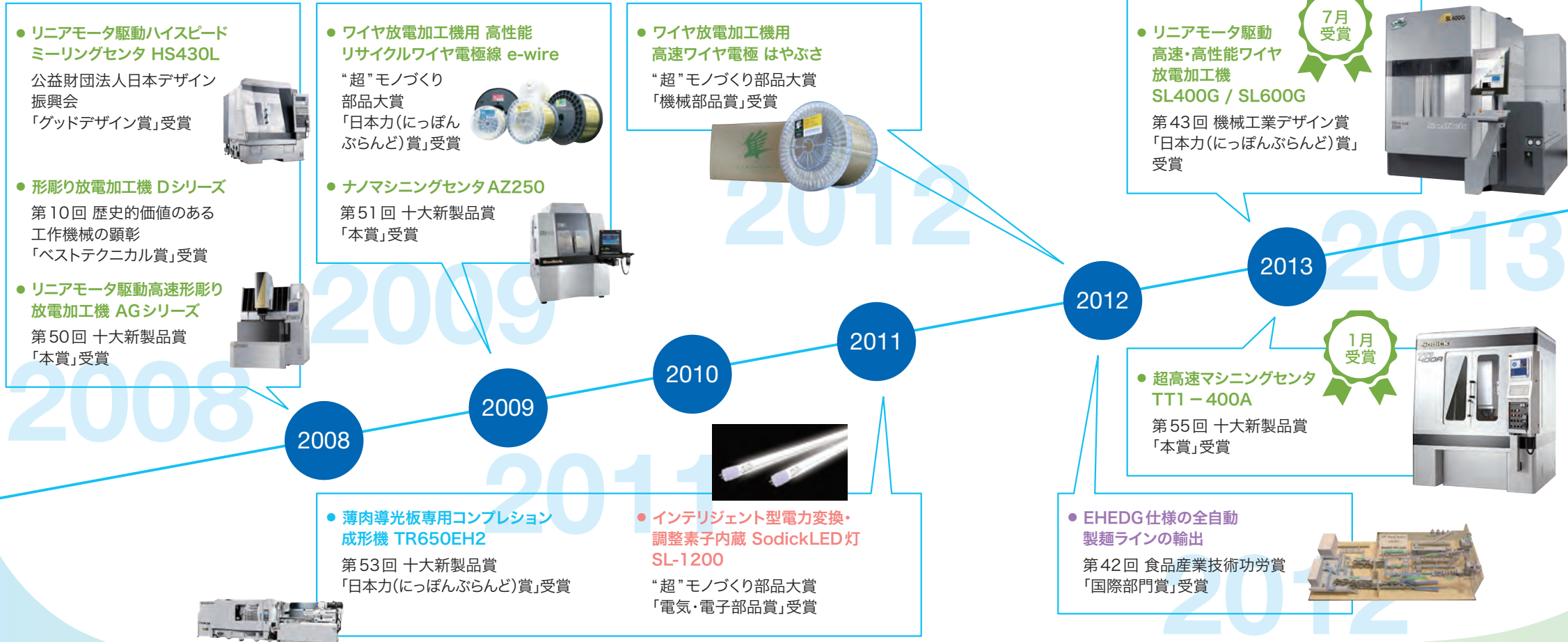
● その他の事業

その他は、放電加工機、マシニングセンタ及び射出成形機などのリース事業から構成されております。当事業の売上高は前年同四半期比23百万円増(89.3%増)の50百万円となりました。



受賞歴からみる ソディックの開発力

当社は、問題解決のために必要なものがこの世になければ、自ら開発してでも解決するという姿勢を貫いてきました。お客様の問題解決のために自社開発したものが、今や当社製品の競争力の源泉となっており、数々の団体より高い評価をいただいております。今後もニーズを反映した機種を開発を行い、技術による社会貢献に努めてまいります。



今後の展開

工作機械事業

- 世界の全ての市場で放電加工機のシェア40%を目指す
- 最先端のハイエンド機と有望市場をターゲットとした戦略機種の投入
- 「質・量の最適バランス」を追求

産業機械事業

- 射出成形機の海外売上高比率を業界平均値と同等の70%を目指す
- 海外市場向け製品ラインナップ強化
▶ 中華圏、アジア市場の開拓
- お客様のニーズに合わせた製品の投入
▶ 小型ハイサイクル射出成形機、シリコン射出成形機等

食品機械事業

製品ラインナップの充実による
新市場への展開

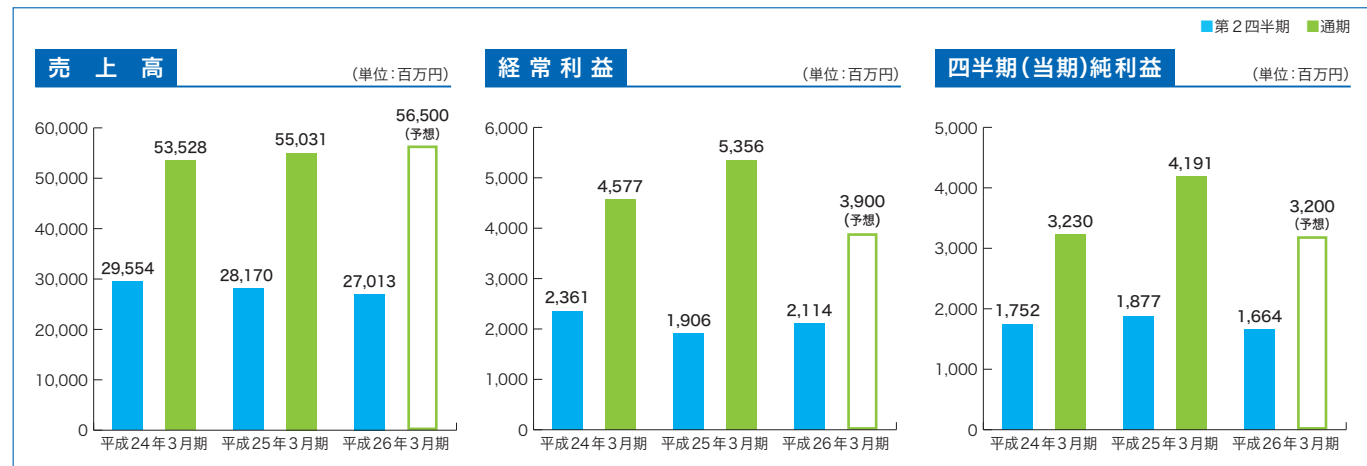
● 当第2四半期の概況

当第2四半期累計期間における経済情勢は、海外においてはくすぶりが続いていた欧州の財政問題に改善の動きが見られ、米国では製造業の国内回帰が進み雇用創出の期待が高まっておりますが、中国の景気減速が不安視されるなど地域によってはばらつきのある不安定な状況で推移しました。わが国経済においては、政府の金融政策により円高是正・株価上昇が進み、輸出産業を中心に業績が回復基調で推移したほか、長らく冷え込んでいた個人消費にも持ち直しの動きが現れるなど、明るい兆しが見られました。

当社グループの業績を左右する設備投資需要は改善傾向でしたが、前年同四半期において業績に寄与したタイ国の洪水被害からの復興需要や単価の高い射出成形機の大型案件が当四半期は無いため、業績はその影響を受けることとなりました。

このような環境のもと当社グループは、海外からの投資が盛んなベトナムに販売会社を開設し、成長市場の取り込みに注力いたしました。また、ドイツのハノーバーで開催された国際的な工作機械の展示会の一つである「EMO Hannover 2013」に出展したほか、ベトナムで開催された「MTA Vietnam 2013」にも出展するなど、高い技術力が要求される成熟市場のユーザーからコストパフォーマンスに優れた製品を求める成長市場のユーザーまで幅広いユーザー層に対し積極的な営業活動を展開いたしました。

● 連結業績ハイライト



以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同四半期比11億56百万円減の270億13百万円(前年同四半期比4.1%減)となりました。利益面では、営業利益は前年同四半期比11億10百万円減の14億88百万円(前年同四半期比42.7%減)、経常利益は前年同四半期比2億8百万円増の21億14百万円(前年同四半期比10.9%増)、四半期純利益は前年同四半期比2億12百万円減の16億64百万円(前年同四半期比11.3%減)となりました。

● 通期の見通し

今後の見通しにつきましては、国内においては、アベノミクスによる景況感の改善や消費税導入前の駆け込み需要など設備投資需要が高まることが期待されます。また、海外経済においては、米国や欧州は上半期に引き続き好調を維持することが期待できますが、中華圏の景気減速の影響が懸念されます。

平成26年3月期の当社グループの業績は、連結売上高565億円(前連結会計年度比2.7%増)、連結営業利益35億円(前連結会計年度比13.0%減)、連結経常利益39億円(前連結会計年度比27.2%減)、連結当期純利益32億円(前連結会計年度比23.7%減)と予想しております。

● 四半期連結貸借対照表

科目	期別	前連結会計年度 平成25年3月31日 現在	当第2四半期 連結会計期間 平成25年9月30日 現在
資産の部			
流動資産		62,688	65,597
固定資産		32,352	33,312
有形固定資産		23,458	24,440
無形固定資産		3,583	4,357
投資その他の資産		5,310	4,514
資産合計		95,041	98,909
負債の部			
流動負債		30,919	29,541
固定負債		28,088	30,299
負債合計		59,007	59,840
純資産の部			
株主資本		35,395	36,525
資本金		20,775	20,775
資本剰余金		5,879	5,879
利益剰余金		10,435	11,565
自己株式		△ 1,695	△ 1,695
その他の包括利益累計額		595	2,504
少数株主持分		42	39
純資産合計		36,033	39,069
負債純資産合計		95,041	98,909

● 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

科目	期別	前第2四半期 連結累計期間 平成24年4月1日～ 平成24年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 平成25年4月1日～ 平成25年9月30日まで
売上高		28,170	27,013
売上総利益		8,649	8,221
営業利益		2,599	1,488
経常利益		1,906	2,114
税金等調整前四半期純利益		1,997	2,128
四半期純利益		1,877	1,664
四半期包括利益		1,645	3,572

● 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

科目	期別	前第2四半期 連結累計期間 平成24年4月1日～ 平成24年9月30日まで	当第2四半期 連結累計期間 平成25年4月1日～ 平成25年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		471	3,549
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 2,296	△ 2,362
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 6,356	1,014
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 115	△ 57
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		△ 8,296	2,144
現金及び現金同等物の期首残高		27,316	25,514
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額		△ 29	△ 0
現金及び現金同等物の四半期末残高		18,989	28,085

● 株式情報 (平成25年9月30日現在)

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	53,432,510株
株主数	14,304人

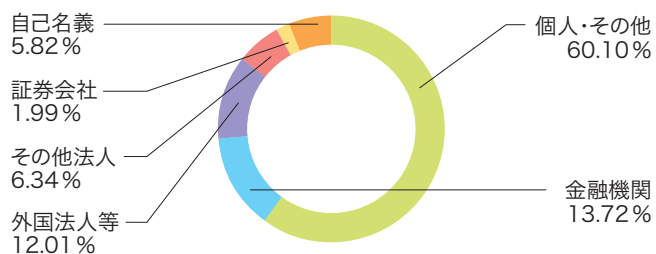
● 大株主 (平成25年9月30日現在)

株主名	名寄株式数(株)	持株比率(%)
株式会社ソディック	3,113,346	5.82
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,336,600	4.37
ザチース マルックン バク エイ ロボト エス エル オムニバ アカウト	1,405,000	2.62
古川 利彦	1,195,975	2.23
有限会社ティ・エフ	1,150,000	2.15
ソディック共栄持株会	1,056,700	1.97
株式会社三井住友銀行	850,000	1.59
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	743,400	1.39
鈴木 正昭	742,260	1.38
株式会社北陸銀行	700,000	1.31

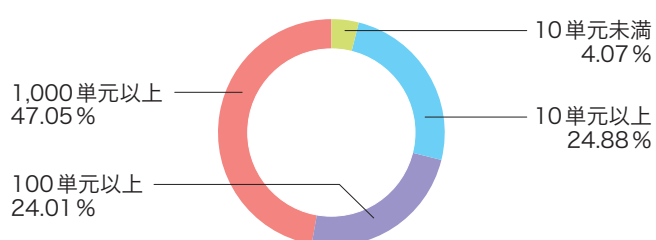
● 会社概要 (平成25年9月30日現在)

会社名	株式会社ソディック
所在地	本社 横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号 〒224-8522 TEL:045-942-3111(代表)
設立	昭和51年8月3日
資本金	207億7,575万6,958円
代表者	金子 雄二
従業員数	614人(連結3,026人)
連結子会社	23社
営業品目	形彫り放電加工機/ワイヤ放電加工機/細穴放電加工機/特殊放電加工機及び専用機(パレットチェンジャ、ロボットなど)/数値制御電源装置/放電加工機専用治具/ハイスピードミーリングセンタ/ナノ加工機/生産統合システム/精密射出成形機/工業用セラミック/産業機械向けリニアモータ/その他電気加工装置/放電加工機用ワイヤ電極線/精密金型・精密成形品/電子部材/各種ソフトウェア/食品機械/LED応用製品/委託研究及び製品開発/その他

● 所有者別株式分布状況 (平成25年9月30日現在)



● 所有株式数別株式分布状況 (平成25年9月30日現在)



● 役員 (平成25年9月30日現在)

代表取締役会長	古川 利彦
代表取締役副会長	藤原 克英
代表取締役社長	金子 雄二
専務取締役(管理・総合企画担当)	古川 健一
専務取締役(工作機械・産業機械販売担当)	高木 圭介
専務取締役(放電加工機事業担当)	松井 孝
専務取締役(射出成形機事業担当)	藤川 操
常務取締役(食品機械事業担当)	大迫 健一
常務取締役(マシニングセンター事業担当)	佐野 定男
常勤監査役	楠 左衛治
監査役(非常勤)	大木 國男
監査役(非常勤)	下山 和人
監査役(非常勤)	奥山 富夫

※監査役のうち、大木國男、下山和人及び奥山富夫は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

● 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324(通話料無料)
特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第2部
証券コード	6143
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.sodick.co.jp/ir/ir-f.html ※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

【ご注意】

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いができませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が特別口座管理機関となっておりますので、下記三菱UFJ信託銀行連絡先にお問合せください。
- 未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行、みずほ銀行、みずほ証券の各本支店でお取り扱いいたします。

【株式に関するお手続きについて】

○証券会社等の口座に登録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324(通話料無料)
○住所・氏名等のご変更 ○配当金の受領方法の指定 ○その他のお手続き、ご照会等		口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

○特別口座に登録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取(買増)請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定(*)	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711(通話料無料) [手続き書類のご請求方法] ○音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479(通話料無料) ○インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufig.jp/daikou/
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324(通話料無料)

(*) 特別口座に登録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

単元未満株式の 買増・買取制度について

株主様のご所有株式のうち、1単元(100株)未満の株式につきましては、証券市場で売買することはできませんが、次のいずれかの制度をご利用いただくことが可能です。

1. 単元未満株式買増制度

ご所有の単元未満株式とあわせて1単元となる数の株式を当社からご購入いただく制度です。

2. 単元未満株式買取制度

ご所有の単元未満株式を当社が買い取らせていただく制度です。